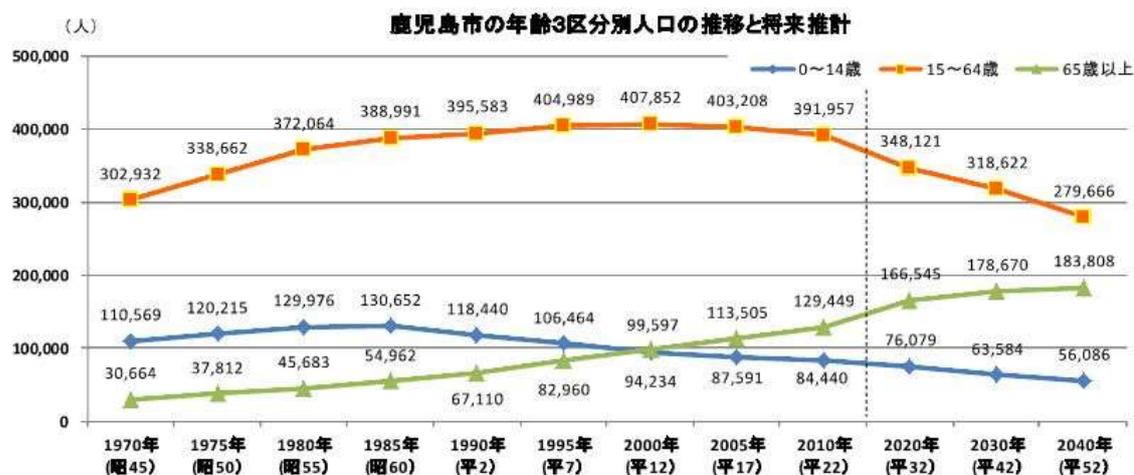


## 2.人材不足対策

### (1) 現状

冒頭で述べたように鹿児島における人口は減少の一途をたどっています。平成の30年間で約20万人が減少し、特に子育て世代が進学や就職を契機に都市部に流出しており、生産年齢人口は平成の30年間で約20%減少しました。このことは高齢者の増大にも拍車をかけています。

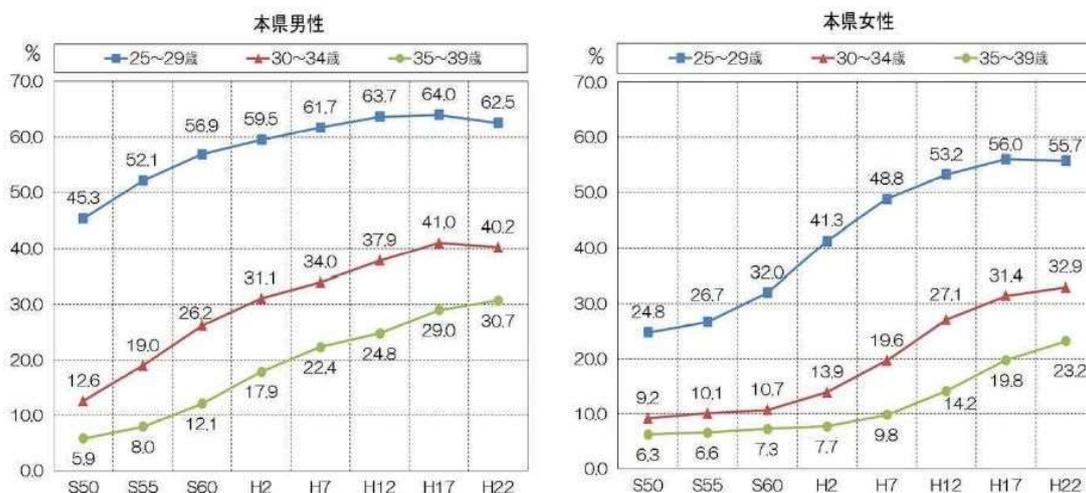


資料：2010(平成22)年までは国勢調査(2004(平成16)年11月に合併した吉田町など5町の人口を含む。)、2020(平成32)年以降は社人研の推計値(2013.3.27公表)による。

上記を踏まえ、若年層が県内で進学・就職できる環境整備が急務であると考えます。

また、本県における30歳代の男女未婚率は約30%と上昇し、出生率については横ばい傾向です。結婚しないことも人生選択の1つではありますが、結婚を選択しない理由および子供を設けない原因を精査し、対策を講じることができないか検討することが必要であるといえます。

鹿児島県の年齢別未婚率の推移(25歳～39歳)



資料：国勢調査